

住民意識から見た都市環境の実態と分析について

大阪市立大学工学部 正 員 西村 昂
 大阪市立大学大学院 学生員 ○ 奥村 彰彦

1. はじめに

都市環境改善のための施策を検討する場合、まず知らなければならないことは、その都市に住む人々がどのように都市環境を捕らえているのかということであろう。しかしながら価値判断基準の異なる住民の意識を十分に把握し、それを施策に生かすことは容易なことではない。そこで本研究は、住民意識調査の結果から住民の都市環境に対する見方を明らかにし、都市環境の実態の基礎的な把握を試みた。

2. 調査概要

住民意識調査は、昭和54年12月大阪市内12地区(500メッシュ)において、地区内住民及び勤労者を対象に実施した。調査は、大阪市内での居住意向、並びに地区の居住地としての環境、勤務地としての環境の2つの環境に対する総合的評価、およびそれを構成すると思われる7つの意識指標(①公共交通機関の利便性②自動車による被害③災害の不安④交通事故の危険⑤施設の利便性⑥公園・緑地の量⑦景観)に対する評価を5段階の選択枝を用いて尋ねたものである。調査票の回収数は12地区合計で約500である。

3. 調査結果

図-1は住民の大阪市内での居住意向をまとめたものである。市外居住者に比べ市内居住者の居住意向がかなり高いという結果が得られ、住民意識に“定住指向”があることがわかる。図-2はそれを更に細かく地域別に集計したものである。都心に向う程、居住意向は高く、住民が都心に対して強い魅力を感じていることを示す傾向といえよう。図-3は、住民意識をリッカートウエイト法を用いて数量化し、居住意向と意識指標との関係を図化したものである。これによると市内居住指向の人はそうでない人よりも、11すれの意識指標に対しても相対的に良い評価を与えており、ことに「公園・緑地の量」や「景観」といった、いわゆる生活の快適性に関わる意識指標が居住意向に大きな影響を及ぼしていることがわかる。図-4は調査地区を土地利用特

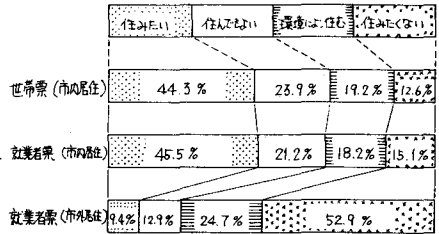


図-1 居住地と居住意向(都心別)

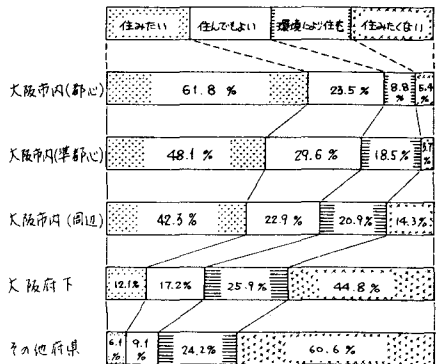


図-2 居住地と居住意向(地域別)

● 居住地としての評価

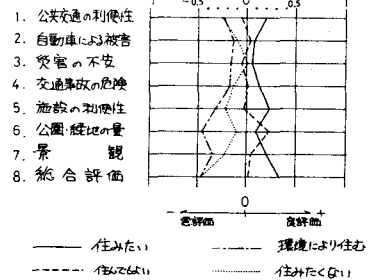


図-3 市内での居住意向と意識指標値のアロソール

Takashi NISHIMURA, Akihiko OKUMURA

性に応じて集計したものである。地区分類に際しては、住工商の土地利用用途面積の比率を三角座標にプロットし比率の高い土地利用用途にその地区を分類することにした。これによれば、居住地としての評価では住宅地に対する評価が、いすれの意識指標に関しても比較的安定し良好な傾向を示している。これに比べ工業地・商業地に対する評価は意識指標間でかなり差が見られ、居住地としてはバランスの欠ける環境として評価されていることがわかる。ことに工業地では「利便性」に関わる評価が悪く、逆に商業地では「安全性」に関わる評価の悪さが目立っている。勤務地としての評価においては、居住地でのそれと比較して「公共交通機関の利便性」「施設の利便性」の各意識指標に対する評価が悪く、勤務地における利便性の重要さを示唆する傾向として見る事が出来る。

表1は、住民の環境に対する総合的評価(総合評価指標)を外的基準とし、説明変数に各意識指標を用い、数量化理論Ⅱ類で分析を行ったものである。これによると、総合評価指標値に最も大きな影響を持つ指標は土地利用形態に関係なく、すべての地域で一番大きなレンジを持つ「景観」であることがわかる。これは「景観」という意識指標がかなり主観的な側面を持つ指標であるため、住民意識の中では総合評価指標と同様に認識されていることを示すものといえよう。二位以下の順位は土地利用特性によって異なっており、居住地としてみた場合、住宅地では「公園・緑地の量」「自動車による被害」、工業地・商業地では「災害に対する不安」「公共交通機関の利便性」のウエイトが大きい。

4. まとめ

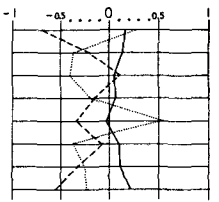
以上、住民意識調査の結果の概略を紹介したが、土地利用特性によって都市環境の評価傾向が異なっている。従って環境改善の施策を検討する場合、土地利用特性を十分に把握した上で適切かつ効果的な施策の選定が望まれよう。

《参考文献》

雨木・西村『都市環境の分析と評価手法に関する一考察』第35回土壌学会全国大会概要集。

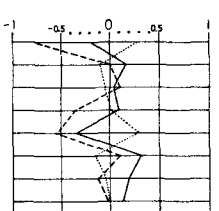
◎ 居住地としての評価

1. 公共交通の利便性
2. 自動車による被害
3. 災害の不安
4. 交通事故の危険
5. 施設の利便性
6. 公園・緑地の量
7. 景観
8. 総合評価



◎ 勤務地としての評価

1. 公共交通の利便性
2. 自動車による被害
3. 災害の不安
4. 交通事故の危険
5. 施設の利便性
6. 公園・緑地の量
7. 景観
8. 総合評価



悪評価 0 良評価

—— 住宅地
----- 商業地
----- 工業地

図-4 地区特性と意識指標値のプロファイル

表-1 数量化理論Ⅱ類による分析結果 (外的基準: 総合評価指標値)

土地利用分類	マイアム	カラコリー	居住地としての評価				勤務地としての評価			
			住宅地	工業地	商業地	住宅地	工業地	商業地	商業地	商業地
公共交通機関の利便性	1. 良い	-0.066	-0.658	-0.176	-0.342	-0.351	-0.007			
	2. 普通	0.038	0.448	0.935	1.146	0.603	0.357			
	3. 悪い	0.382	(5)	0.287	(3)	0.761	(4)			
自動車による被害	1. 被害なし	-0.373	-0.483	-0.202	-0.136	0.072	0.126			
	2. どちらでもない	0.321	0.694	0.611	0.644	0.262	0.378			
	3. 被害あり	0.093	(3)	0.128	(4)	0.071	(3)			
災害に対する不安	1. 不安なし	-0.043	0.134	0.377	0.094	0.096	0.111			
	2. どちらでもない	0.036	-0.121	1.263	1.393	0.116	0.394			
	3. 不安	0.013	(7)	0.067	(2)	-0.022	(7)			
交通事故の危険	1. 危険なし	-0.083	-0.374	0.060	-0.141	-0.423	-0.011			
	2. どちらでもない	0.692	0.250	0.624	0.561	0.492	0.501			
	3. 危険	0.049	(4)	0.093	(5)	-0.011	(3)			
施設の利便性	1. 良い	0.083	-0.035	0.061	-0.083	0.084	0.040			
	2. 普通	0.236	0.231	0.509	0.436	0.362	0.157			
	3. 悪い	-0.278	(6)	-0.267	(6)	0.372	(7)			
公園・緑地の量	1. 多い	-0.661	0.126	-0.202	-0.363	-0.241	-0.760			
	2. 普通	0.943	0.530	0.742	0.283	0.776	0.328			
	3. 少ない	0.282	(2)	0.212	(7)	0.214	(5)			
景観	1. 良い	-1.733	-1.998	-1.284	-1.482	-2.783	-0.397			
	2. 普通	0.179	2.767	0.062	2.776	0.342	3.231			
	3. 悪い	0.471	(1)	0.269	(1)	0.586	(1)			
相関係数 (R ²)		0.322	0.400	0.444	0.332	0.741	0.486			